

RG-23

自動処理_HASMC 培養細胞からの total RNA 分離 ($\sim 1 \times 10^6$ 個)

プロトコル

ペレット化した細胞

 細胞をペレット化し上清全部を吸引で取り除く
(細胞数上限 1×10^6)

 ← PBS: 20 μ l (凍結細胞ペレットの場合)

チューブを軽く叩きペレット化した細胞をほぐす

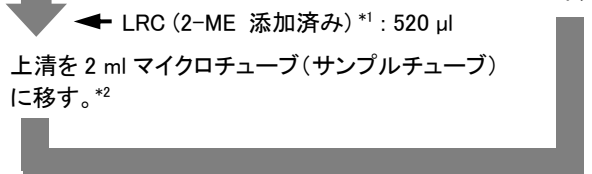

 ← LRC (2-ME 添加済み) *1: 520 μ l

上清を 2 ml マイクロチューブ (サンプルチューブ) に移す。*2

ディッシュ上溶解

 ディッシュ中の培養液全部を吸引で取り除く
(細胞数上限 1×10^6)

 ← LRC (2-ME 添加済み) *1: 520 μ l

 セルスクレーパーで細胞を集め、
マイクロチューブ中に全量回収*2


ボルテックス: 1 分間 (最大回転数)

装置にセット

 Protocol: RNA CULTURE CELL
(溶出液量: 100 μ l *3)

*サンプルチューブのセット方法については、

Quick Start Guide または取扱説明書を参照してください。

1. ライセートを移液後、100 μ l のエタノール (>99%)と混合
2. ピペティングにより攪拌
3. ライセートを移液後、180 μ l のエタノール (>99%)と混合
4. ピペティングにより攪拌
5. ライセートをカートリッジにアプライ
6. 加圧
7. Wash Buffer(WRC)で 1 回洗浄
8. DNase 処理
9. Wash Buffer(WRC)で 2 回洗浄
10. 溶出液(CRC)を添加し、total RNA をコレクションチューブに回収

Total RNA

*1 2-メルカプトエタノール (2-ME)を、使用前毎に必ず LRC に加えてください。1 ml の LRC 当たり 10 μ l の 2-ME を加えます。

*2 推奨のマイクロチューブ
#BM4020 (ビーエム機器)
#72.695.700 (SARUSTEDT)
#72.695.500S (SARSTEDT)

*3 推奨溶出液量は 100 μ l です。溶出液の容量は 50 μ l まで減らすことができますが、その場合、溶出効率が低下する可能性があります。

サンプルの種類・保存条件などによっては分離できない場合もあります。
データに関しては保証しておりません。
分離した核酸には目的以外の核酸 (例: DNA 分離には RNA) が含まれています。

結果

Total RNA の収量 (DNase 処理なし)

タンパク質の混入 : A260/280 /カオトロピック塩の混入 : A260/230

サンプル	細胞数	A260/280	A260/230	収量(μg)	S. D.
HASMC	1 × 10 ⁶	2.22	2.08	17.9	1.48

N=4

共通プロトコルサンプル

HL60 細胞、HeLa 細胞、HEK293 細胞、NIH/3T3 細胞、COS-7 細胞、NHEK 細胞